

ニューノーマル適応のための テストプロセス改善

2021.3.15
ソーバル株式会社

<https://www.sobal.co.jp/>

上田 卓

本日お話しすること

Chapter 1 : 頂いたお悩み

Chapter 2 : 原因分析と課題

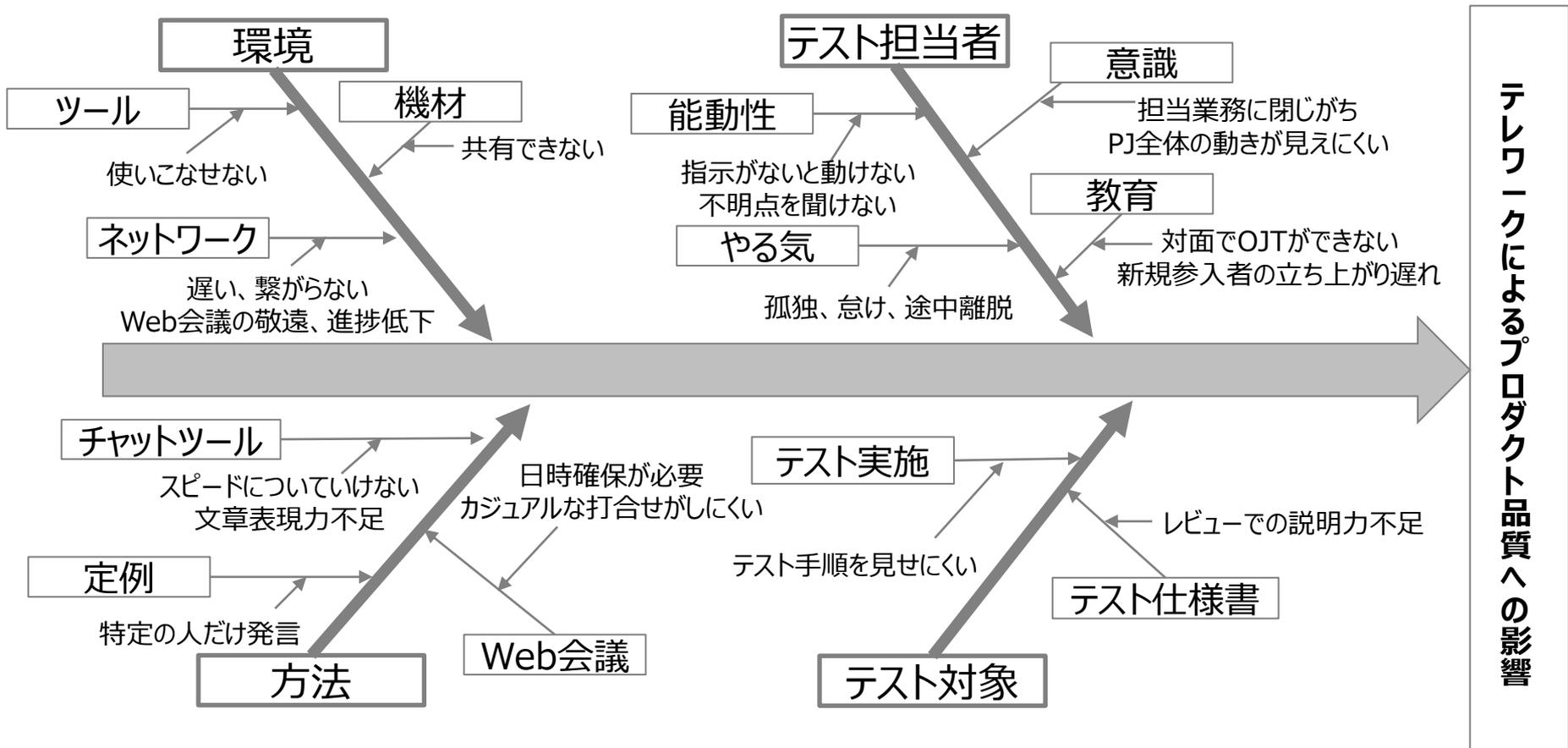
Chapter 3 : テストプロセス改善の提案

Chapter 4 : お伝えしたいこと

Chapter 1 頂いたお悩み

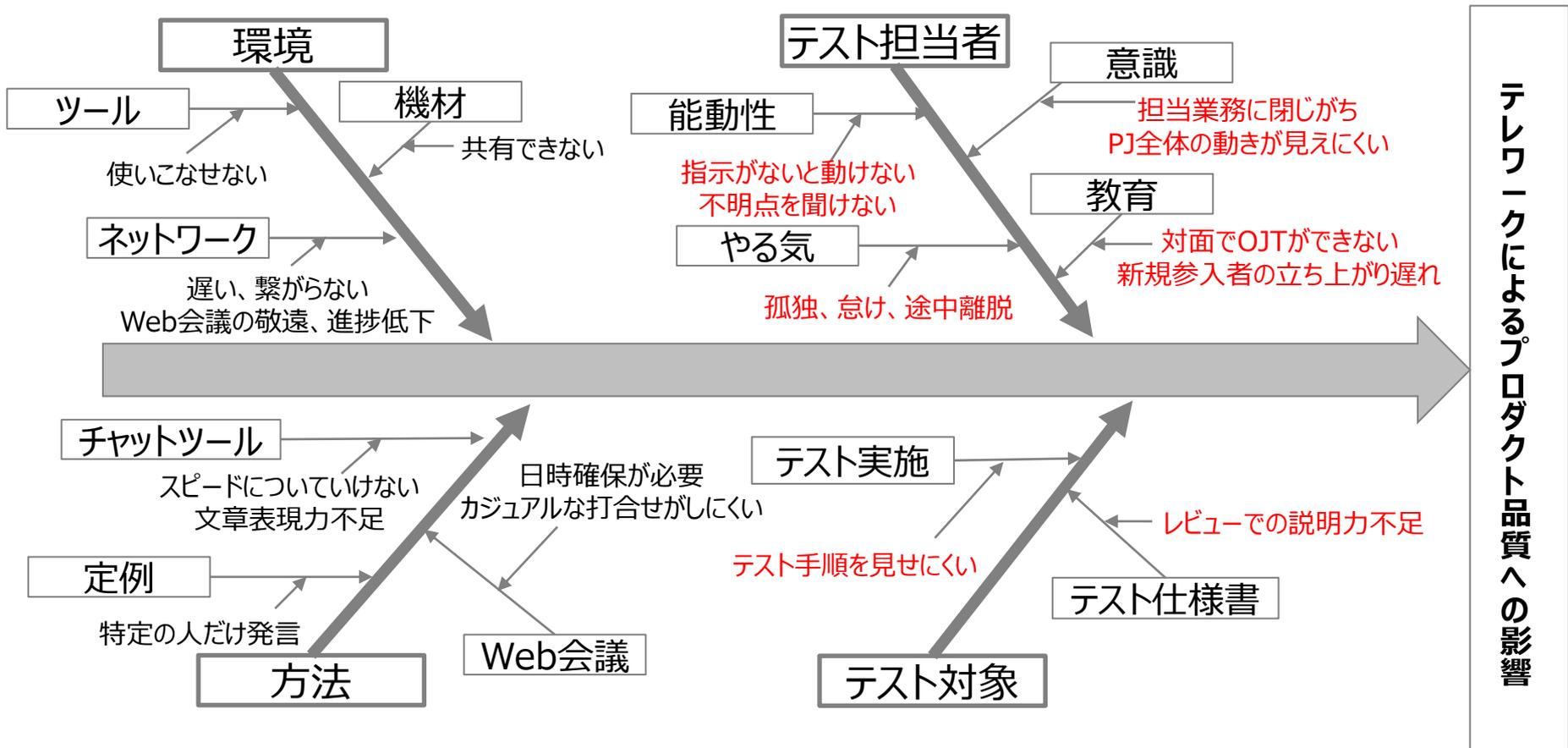
最近、職場でテレワークが進んでいるのですが、テレワーク前と比べると開発チームとテストチーム間でのコミュニケーションが減ってしまい、仕様の理解不足や認識齟齬が発生しています。その結果、テストの手戻りやバグ流出などが起きています。

テレワークに移行してから、テストチームの進捗が以前より下がるようになってしまいました。デイリーで進捗確認はしているのですが、以前より生産性が上がりません。



洗い出した課題について
TPI NEXTを使った
テストプロセス改善方法を
考えてみましょう

Chapter 3-1 改善する課題例



Chapter 3-2 チェックポイント例（コントロールレベル）

■ テスト組織

テスト組織により、テストの取り組み方やテスト関連プロダクト、手順、合意事項、明確なテスト結果のフォーマットが統一されている

- 1 テストサービスの責任を持つ人（あるいは部署）の所在を人々が認識している。
- 2 テスト組織において、コントロールおよび説明責任の体制がある。
- 3 テストのタスクや責任が定義（および文書化）され、それらは人や組織内の各部署に割り振られている。
↳ 「テスト担当者ごとに責任と役割が与えられ、行うべき作業が明確になっている」と解釈（「能動性」「意識」改善チェックポイント）
- 4 クライアントから見て、テスト組織におけるテスト関連のプロダクトやサービスが明確である。

■ コミュニケーション

適切な決定は、関係するすべての人々に情報を伝達することによって可能となる。

- 1 各チームメンバは、下された決定と内部進捗を把握している。
- 2 テストチームは、関連情報を利害関係者から積極的に収集している。
↳ 「テスト担当者は、不明点やナレッジを問い合わせる方法が明確である」と解釈（「能動性」改善チェックポイント）
- 3 テストチームがコミュニケーションで合意して、決定した時点へさかのぼることができる。
- 4 テストチームは利害関係者と共に、進捗、プロダクト品質、リスクについて慎重に検討し、潜在的な遅延があれば、策を見越して警告を出す。
追加 各チームメンバごとにコミュニケーションを取る機会を設けている。（「やる気」改善チェックポイント）

Chapter 3-3 チェックポイント例（効率化レベル）

■ コミュニケーション

対象となる受け手に対する簡潔な情報の形態と内容が、作業の生産性向上に貢献する。

- 1 テストチームは、どの情報をどの利害関係者と共有すべきかを特定できている。
 「テストチームは、新しいテスト担当者に対してドメイン知識や過去のナレッジなどの共有や教育をしている」と解釈
（「教育」改善チェックポイント）
- 2 テストチームは、その他の利害関係者と共に該当する会議に参加している。
- 3 テストチームは、利害関係者と適切な形式でコミュニケーションできるようにさまざまなコミュニケーション手段を用意している。
 「テストチームは、共同でレビューやテスト手順の確認など行う手段を用意している」と解釈
（「テスト実施」「テスト仕様書」改善チェックポイント）

テストプロセス改善モデルは、 プロジェクトの成熟度や現場の課題に合わせて テーラリングして活用しましょう

※ASTERテストプロセス改善研究会では、改善事例を随時募集しています。
公開可能な事例をお持ちの方がいらっしゃいましたら、事例のご提供いただけますと幸いです。
また、メンバーとして事例集整備へご参画いただくことも大歓迎です。

<事例提供フォーム>

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfs4WAaFeVH0FbIDb1x5zwHzodDO7txXLklxQPqeZ8GFHZJg/viewform>